

報告**Astro-HS 全国フォーラム 2014****開催報告**

**塚田 健（平塚市博物館）、青山雄彦（東京大学）、柴田吉輝（日本大学）
ほか Astro-HS 運営委員会**

1. はじめに

2014 年 3 月 21 日（金）、早稲田大学早稲田キャンパスにて高校生天体観測ネットワーク（以下、Astro-HS）の全国フォーラムを開催しました。タイから参加した 4 グループを含め、計 34 グループ約 200 名の生徒と約 60 名の顧問・スタッフが集まり、盛況な会となりました。2013 年は、期待されていたアイソン彗星の崩壊というショッキングなできごともありましたが、それが逆に話題にもなり関心が高まったかもしれません。（塚田 健）



図 1 フォーラムの様子

2. プログラム**2.0 プレイベント**

今回からの新しい試みとして、交流会が正式に開会する前にプレイベントを設けました。これはフォーラムの時間があまり長くとれないため、開会より早く会場に来られる人を対象にした交流を前面に打ち出したイベントで、具体的には名刺交換とクイズ大会という構成でした。

名刺交換は後のクイズ大会のチーム分けを兼ねており、その場で作成してもらった名刺

を他校の生徒と交換してもらい、交換した人間とチームを結成してもらいました。ちなみにこの際、司会進行を務めていた OB 三人も名刺を作っていたのですが、OB と名刺を交換してくれる高校生は現れませんでした。もっと気さくに接してもらってもよいのですが。

また、その後のクイズ大会では、上記 OB がそれぞれ作った天文関係のクイズを持ちより、チームごとに解答してもらいました。気合を入れてたくさんの問題を用意していたのですが、時間の都合もあり作った問題の半分も使うことができず、「このくらいなら答えられるかな？」とか「これは引っ掛かるかな？」などと高校生に回答してもらうのを楽しみにしていた OB 達にとってはいささか心残りでした。

問題点としては、初めにチーム分けをしてからクイズ大会という構成にしてしまったせいで、プレイベントの途中に会場に到着した生徒が参加しにくいという状況になってしまった事でしょうか。次の機会があれば開会前のどのタイミングで来て楽しめるプレイベントにしたいと思います。

最後に、このイベントは参加者が少なめだったこともあり、普段のイベントに比べて他校の生徒と個人的に交流できたのではないかと思います。これからもこのような新しい試みはどんどん取り入れていければと思います。（青山雄彦）

2.1 2013 年度の活動**および 2014 年度の活動予定の報告**

2013 年度の Astro-HS の活動と 2014 年度

の活動予定について Astro-HS 事務局長の塚田から報告しました。Astro-HS では、2013 年度の観測テーマをアイソン彗星とし、アイソン彗星の光度変化を追うことを主眼としました。観測マニュアルや web 上の光度報告フォームを作成、インタラクティブに光度変化が追えるようにしました。残念ながらアイソン彗星が近日点通過時に崩壊してしまい、その後の観測ができなくなってしまいました、彗星のアウトバーストが捉えられているなど、一定の成果は上げることができました。

2014 年度は、10 月の皆既月食をテーマとして取り上げる予定です。(塚田 健)

2.2 講演およびアイソン彗星顛末記

続いて、話題となったアイソン彗星の崩壊理由について、彗星とはどのような天体かというも含めて、国立天文台／都留文科大学の古荘玲子さんに講演していただいた。古荘さんが実際にアイソン彗星の観測に携わっていたこともあって、研究の現場の雰囲気も高校生に伝わったのではないかと思います。質疑応答も活発に行われました。

講演の後、やはりアイソン彗星について、今度は高校生の立場からの体験記を発表する



図 2 講演の様子

時間「アイソン彗星顛末記」を設けました。応募していただいた 3 校のグループの、悲喜こもごもの発表で、会場也大いに盛り上がりました。

2.3 1 分間 PR

続いて、指導者は別室へ移動し、毎年恒例となっている 1 分間 PR が行われました。

1 分間 PR では、参加各校の思いが詰まった熱い PR になりました。福岡県立小倉高校のみなさんの軽快な司会進行から始まり、各校から星空への思い、部員の実態などなど小学生から高校生、そして運営側の OB まで会場が一体となった時間でありました。

また各校での観測、観望会の取り組み紹介から、自分たちの活動にも取り入れてみよう！という思いをもった生徒もいたようです。

他にも高校生のネタを小学生が汲み取るという場面もあり、会場からは笑いが巻き起こりました…。北は北海道から、南は九州・福岡まで、さらにタイからの参加もあり、白熱した時間となりました。(柴田吉輝)



図 3 1 分間 PR の様子

2.4 指導者情報交流会

顧問の先生方をはじめとする指導者と Astro-HS のスタッフの一部は、(高校生たちに気兼ねなく 1 分間 PR を行ってもらうため

もあり・笑) 別会場に移動し、指導者同士の情報交換会を行いました。来年度、皆既月食以外にめばしい天文現象がないため、ほかにもどのような天文現象が対象となり得るか、また Astro-HS が 17 年目を迎えるにあたって参加グループの皆さんが Astro-HS に何を期待しているかざっくばらんに語っていただきました。

天文現象に関しては、木星の相互食や(ケレスやベスタが衝を迎えることもあり)小惑星の検出などが候補として挙がりました。また、メシエマラソンのような競技性があり各グループで競いながら楽しめるものや、日常的に取り組める活動なども欲しいという意見が挙がりました。

Astro-HS に何を期待しているかについては、観測ガイド(Astro-HS では初めて天体観測をする高校生でもサイエンスの観測に手が届くように毎年観測ガイドを作成してきました)に対するご意見を数多くいただき、Astro-HS が果たす役割の一つでもあると強く感じました。また、インターネットが発達し、ML や SNS をはじめとする手軽なコミュニケーション・ツールが増えてきた中で、今回の全国フォーラムのように実際に高校生同士が会える機会は貴重で重要である、というご意見もいただきました。インターネットが未発達の時代にそれを活かした活動を始めた Astro-HS。インターネットという手段を利用しながらもリアルな天文現象を高校生に体験してもらうことを第一の目的として活動してきましたが、人と人とがリアルにつながる活動も Astro-HS が果たしていくべき役割の一つなのかもしれません。(塚田 健)

の話を聞き、自分たちの活動を全国の仲間に PR し、触れ合いを楽しむという充実した交流会になったのではないかと思います。指導者交流会でも活発な意見交換をすることができました。来年度は宿泊を含めたフォーラムができないか模索をしています。さらに活発な交流会にすることができればと願っております。(塚田 健)

塚田 健

青山雄彦

3. おわりに

2 時間(プレイベントを含めても 3 時間 30 分)という短い時間でしたが、参加したグループの生徒たちにとって、話題になった彗星

柴田吉輝